

移り変わる池袋本町

—池袋本町いまむかし①—

7月23日に区民ひろば池袋本町で、豊島区立郷土資料館の学芸員 秋山伸一氏による「池袋本



池袋村絵図（東京都公文書館所蔵） ※北を上配置

町いまむかし」という講演会が行われました。とても興味深い内容でしたので、何回かに分けてお知らせします。

現在の池袋本町は、江戸時代には池袋村と新田堀之内村とでなっていました。池袋村は現在の池袋、西池袋まで含む広い村で、新田堀之内村は北池袋駅の周辺と上池袋三・四丁目の一部が入る村でした。その後、明治22年に市町村制の施行により北豊島郡巣鴨村、その後西巣鴨町となり、昭和7年に長崎町・高田町・巣鴨町・西巣鴨町の4つの町が合併して豊島区となりました。

江戸時代の「新編武蔵風土記稿」によれば、池袋村には原(はら)、本村(ほんむら)、上(かみ)の3つの小名があったと記載されています。この中の本村が今の池袋本町の原型となっていました。池袋村の戸数は129戸、のどかな農村風景が広がっていたのでしょうか。村の中心となる通りは江戸大塚より板橋に続く道で、幅は三間(約5.4m)とされています。これが今の中央通り商店会の道です。その後、昭和20年4月13日の城北大空襲を経て、池袋本町地域は都市化の一途をたどります。



池袋本町

まちづくりニュース

Ikebukuro Honcho
Machizukuri News
No.59

2015年9月発行

発行：池袋本町新しいまちづくりの会
http://池袋本町.net
豊島区都市整備部地域まちづくり課
問い合わせ先：
tel 03-3981-1464
fax 03-3980-5135
編集協力：防災アンド都市づくり計画室

防災ひろば用地(2000㎡)の利用

池袋本町一丁目の池袋本町公園の隣にある防災ひろば用地(2000㎡)は、防災まちづくりの一環として、平成11年にJR職員住宅跡地を購入した敷地です。その北側の4000㎡のひろば用地と合わせて、地区の防災の拠点とする計画が立てられていました。その後、4000㎡は学校の再配置計画によって小中連携校の敷地に組み込まれ、現在工事が行われています。2000㎡のひろば用地は、その敷地の一部を利用して新しいまちづくりの会が提案した防災通り1号線の先行整備が行われました。しかし広場部分は本町公園で行われるイベントの際に利用されるだけです。

このたび、豊島区ではこの敷地を活用して高齢者施設ができないかを地元で打診しています。これは、池袋一丁目にある特別養護老人ホーム「養浩荘」が老朽化により建替えの必要に迫られており、さまざまな制約から同じ敷地での建替えが困難なため、立地が可能な敷地を探した結果、2000㎡のひろば用地ではどうかとの提案です。

新しいまちづくりの会では、特別養護老人施設が区内で不足している事情はわかるものの、これまで防災に利用するために確保してきた敷地なので、もう少し丁寧な説明が欲しいと要望しています。9月の会合で、行政と福祉法人、設計者を交えて、この敷地を地区全体の防災性の向上に役立てるようにしてほしい、施設



参加者募集中

- 新しいまちづくりの会では、参加者を募集しています。お気軽にご参加ください。
- 会議の日程やご参加については事務局までお問い合わせください。
事務局：豊島区地域まちづくり課
電話：03-3981-1464
Eメール：A0022706@city.toshima.lg.jp

電車の見える公園の石拾い

池袋本町電車の見える公園で放射性物質が発見されてびっくりしました。複合遊具の下にラジウムが埋められていたとのこと。なぜラジウムが埋められたかは謎のままですが、ラジウムを取り去ったところ、通常の放射線の値に戻ったため、豊島区では安全宣言を出しました。

この騒ぎを見聞きして、改めてまちの安全性について考えさせられました。今回のような予期せぬ事態に遭遇した時には、あわてず、正しい情報を得ることが必要になります。今回は流言やデマはなかったと思いますが、より混乱した事態になると悪意はなくても人を惑わせるうわさが一人歩きをすることがよくあります。そういうことに惑わされないように、正しい情報源は何かについて考えておくことが必要ではないでしょうか。

さて、放射能騒ぎが起きる前に、新しいまちづくりの会では公園を使ったイベントを企画していました。その目的の一つははらっぱに散乱する石を拾うことです。この石は公園ができる前に建っていた清掃車庫のガレキが土の中に残っているものです。

これまで新しいまちづくりの会では清掃パトロールの際に石を拾ってきました。しかし、石は雨が降ると土の中から出てくるようで、なかなかなくなりません。子ども達のはらっぱを安心して駆け回ることができるようにと、今回の石拾いイベントの開催となりました。

この石については、工事を行った豊島区の責任で取るべきだという意見も寄せられています。確かにそういう見方もあるかもしれませんが、新しいまちづくりの会では、この公園を自分達の公園としてより多くの皆さんに親しんでもらいたいと考えています。普段から使いなれた場所が災害時にも人々の拠りどころになると思うからです。そのために楽しみながら石をみんなで拾うというイベントを企画しました。このイベントは、子ども達を石から守るという意味と同時に、地域の拠りどころをつくるという思いが込められています。



つれづれに一言

池袋本町二丁目 野坂 朗

私が池袋本町を離れて二十年、戻ってきてから間もなく十五年が経ちます。時代と共に変わっていかねければならない部分が沢山感じられます。特に都市計画道路、新たに特養の建設計画など、それらは必要な計画だと思っています。災害に対する安全対策、目前に迫る高齢化社会…。しかし、これらの事業によって、地域住民が生活し辛くなったり、安全が脅かされてはならないと思いますし、計画に押し流されてはいけません。

特養に関して言えば、六十人規模で足りるのか、この場所が本当に適切な場所なのか、まだまだ検討の余地があると思います。より住みやすく温かみがあり、長く住み続けられる池袋本町に変貌して行くために、私たちは色々な角度から行政に提案していかねばならないと思います。

地区計画にむけて

豊島区では6月30日に地区計画等についての説明会を開催しました。

区では一昨年から懇談会を開催して皆さんのご意見を伺うと共に、アンケート調査を行って意向の把握に努めてきました。また、池袋本町新しいまちづくりの会でも検討を行い、その結果を区に提案しています。区ではそれらの意見を参考にまちづくり構想をとりまとめ、それをルール化する地区計画と用途地域の変更についての素案を提案するために説明会を開催したものです。

まちの将来像

区からは区域ごとに次のようなまちの将来像が提案されています。

- 補助73号線沿道：賑わいと居住機能が調和した複合的な中層建築物の街並み
- 補助82号線沿道：周辺住宅地と調和した、居住機能が主体となる複合的な中層建築物の街並み
- 北池袋駅・下板橋駅周辺：地域の生活拠点として、日常生活を支える店舗や施設が充実し、駅と良好なアクセス空間を備えた中高層建築物の街並み
- 既存商店街：住宅地に調和する店舗等による中低層建築物の街並み
- 住宅地区：住宅の建替えが着実に進み、災害に強く安心して住み続けられる中低層建築物の街並み

このまちの将来像をルールによって定めるための地区計画と用途地域についての素案が提案されました。提案では、多くの地区で日影規制がなくなり今よりも建替えがしやすくなる一方で、建物の最低限の高さや路線によって1階の壁面の後退を行うなどまちの安全性を高めるためにご協力いただきたいことが盛り込まれています。

この提案によって、地区の大部分で建築のルールが大きく変わります。ご自分の敷地でどのような影響があるかについて、是非ご理解いただきたいと思えます。

区では今年10月頃に地区計画原案説明会を開催し、並行して都市計画手続きを行い、平成27年度末までには都市計画決定を行いたいと考えています。

区のホームページにも説明会当日に配布した資料を掲載しておりますので、併せてご覧ください。
<http://www.city.toshima.lg.jp/306/machizukuri/toshikekaku/jishin/032021/032022.html>



東京都からのご案内 補助73号線 補助82号線 関係権利者のみなさま 相談窓口をご利用ください

東京都では平成24年に木密地域不燃化10年プロジェクトを策定し、「燃え広がらないまち・燃えないまち」の実現に向けた事業を行っております。本地区では、東京都が整備を進める特定整備路線と豊島区の建物不燃化助成等により、相互に連携して取組を進めています。

特定整備路線の補助73号線（池袋本町）・補助82号線（上池袋・池袋本町）については、本年1月に国土交通省より事業認可を取得いたしました。6月より、ご協力いただける関係権利者の皆様から事業地内の建物や工作物の調査を行っております。また、並行して土地価格の評価作業を行っており、今後、順次個別のお話に入らせていただきたいと思います。

なお、補助73号線・補助82号線事業区域内の関係権利者の皆様を対象とした相談窓口を現地に設置しています。移転先や再建に関して疑問やお困りのことがございましたら、お気軽にお立ち寄りください。（東京都第四建設事務所）

相談窓口

住所：豊島区池袋本町 3-7-29
箱根ビル 1F
開設日時：毎週月曜日～土曜日
10時～18時
（祝祭日、年末年始は除く）
電話番号：03-5904-8552



池袋本町電車の見える公園

防災体験＋石拾いイベント

石拾いゲーム

参加者は手に手に袋を持って石を拾います。その重さを量って次の賞が出されました。
○ピタリ賞
○がんばったで賞
○大きかったで賞



かまどベンチでご飯炊き

公園のベンチはかまどになります。新聞紙を使ってご飯を炊くことができます。炊き上がったご飯はおにぎりにして、石拾いゲームの参加賞として配られました。



非常用トイレ

公園の東側には非常用のトイレが4基設置されています。ここにテントを張って使います。この日は雨模様のためにテントを張るのはとりやめました。近くにある深井戸の水を流して使います。



炊事場になる流し台

公園の流し台は、井戸水が使える災害時用の炊事場になります。



池袋本町電車の見える公園で6月21日に防災体験＋石拾いイベントが行われました。

電車の見える公園は防災公園として整備されており、公園内にはいくつかの防災設備が造られています。これらのものは普段から使い方に慣れておかないと伊ザという時に使えないと困ります。そこで防災設備を体験しようというのがイベントの目的のひとつ。もうひとつははらっぱに散乱している石をなんとかしたいということ。楽しみながら石拾いを行う企画を考えました。その思いについては4ページの「まもる」をご覧ください。

イベントは今にも雨が降り出しそうな雲の下で行われました。50人以上の方が参加して行われました。このイベントは、電車の見える公園が出来上がったから初めて行われたものです。できれば来年以降、継続していきたいものです。

ことしのふれあいまつり

毎年恒例の池袋本町ふれあいまつりに、今年も新しいまちづくりの会が参加します。

新しいまちづくりの会では、子どもから大人まで楽しみながらまちづくりや防災について学ぶことができ、またまちづくりのついでにいろいろなご意見を伺う企画を行う予定です。是非ブースにおいでください。

日時：平成27年10月11日(日)～12日(祝)
午前10時～午後3時

場所：池袋本町公園

企画：防災すごろく＋防災クイズ

まちづくりなんでも相談 などなど

